

令和5年度

宜野座村通所介護事業所

事業報告書

自：令和5年4月1日

至：令和6年3月31日

令和5年度通所介護事業所 評価・課題について

【管 理】

評 価

- ・毎月業務改善会議を実施し、業務内容や利用者様の支援方法など職員間で話し合い、情報共有や内容の改善などができた。
- ・業務開始前後にミーティングを行い、職員間で情報共有ができ業務にあたることができた。
- ・毎月デイサービス便りを発行し、利用者様やご家族様、関係事業所に配布し、活動内容を知らせることができた。
- ・感染予防対策(職員の定期的な抗原検査、マスク装着の推奨など)を実施し、感染症を防止し、クラスター発生を防ぐことができた。
- ・毎月施設内研修を実施し、職員の知識、技術の向上に努めることができた。
- ・ヒヤリハットや事故報告を業務改善会議で報告、話し合うことで今後の事故防止対策を立てることができた。

課 題

- ・利用者様が入所や永眠により減少し、事業収入が減額した。
- ・コロナ禍のため、行事が予定通り行う事ができなかった。
- ・転倒事故が発生し十分な対応ができず、利用者様、ご家族から指摘があった。
- ・業務マニュアル等が古くなってきており、新たに改善して整備していく必要がある。
- ・利用者家族様から職員の言葉遣いや接遇に指摘があり、その都度対応したが改善できない所があった。

【機能訓練】

評 価

- ・訓練中ヒヤリとする事はいくつか見られたが、大きな事故もなく訓練を実施することができた。
- ・令和5年度分の利用者全員の個別機能訓練計画書、運動機能向上計画書及び報告書を記入漏れなく作成する事ができた。
- ・新規の利用者の担当者会議の際に自宅状況を確認し家屋環境を評価の流れがスムーズになっている。

課 題

- ・令和5年度 事故報告書1件 ヒヤリハット0件
移動時の転倒に関する物であった。第一発見者だけでインシデントの分析するのではなく、多職種で解決策を検討する必要がある。
- ・昨年度と同様、在宅での転倒が多く、定期的に自宅に訪問し危険な場所を早期に把握し対策を考える必要がある。
- ・運動器具のマンネリ化があり、訓練項目の見直しや新しい器具の購入の検討が必要。
- ・機能訓練の専門的な研修、勉強会の必要性。

【看 護】

評 価

- ・新型コロナウイルス感染症陽性者が減少しクラスター発生を未然に防ぐことができた。
- ・職員の定期的なPCR検査・抗原検査を予定通り実施出来た。
- ・介護職と情報交換しながら業務にあたり、利用者の変化に気づき早めに病院受診を促し治療する事ができた。
- ・送迎中に利用者と職員が転倒した事案を基に救急時の処置や連絡方法などのマニュアルを検討し作成する事ができた。
- ・救急蘇生法の研修会が2回実施でき、ほとんどの職員が参加できた。
- ・看護師間の伝達がなされず内服を投薬できなかったインシデントが1件あったが、その後は利用者様の昼食後の内服は確実に投与できている。

課 題

- ・定期的なケースカンファレンスができず統一したケアが不十分であった。
- ・定期的なケースカンファレンスを持ち病状の理解を深め介助の仕方など職員間で統一した支援ができるように努める。
- ・看護職の3名が一同に話し合う時が困難だったため、月1回の業務改善委員会の日にケースカンファレンスを持ちたいと考える。
- ・高齢者の認知症、失語症、老齢期疾患と薬物療法などの専門的な研修を受講し、ケアに活かしていきたい。
- ・看護用品の血圧計が古く使いにくい時があり備品の整備が必要である。

【食 事】

評 価

- ・個々に合わせた料理を提供できた。(キザミ食、粥食、雑炊食など)
- ・個々に合わせて好みやアレルギー食にも対応できた。
- ・害虫駆除は(3月・10月)に業者に依頼し、害虫はほぼ見当たらず改良された。
- ・グリフトラップも奇数月に業者が入り、油、生ごみ等を回収、害虫が減った。外からの蟻の侵入も見られなかった。
- ・誕生会や行事等の食事やデザートを美味しく準備提供し、喜んで頂いた。
- ・毎月職員の検便検査、抗原検査を行い、健康・衛生面や感染予防に努めることができた。
- ・12月より検食を中止とした。
- ・検食バットに日々の食事を取り、保健所からの指示(二週間)分を保管することができた。
- ・冷蔵庫、冷凍庫内の洗浄、消毒をこまめに行い、衛生面を保つことができた。
- ・保険の加入継続やハサップも保健所の指示通りにできた。
- ・レストラン側から冷凍庫を厨房内に移動した。洗浄時の錆防止としてブロックで底上げを行い、食材の管理や出し入れが効率よくできるようになった。
- ・12月15日より食事提供後の余りを職員に販売し、売り上げは、厨房の小口現金に追加され、消耗品や行事のおやつなどの購入にあてている。
- ・小口現金ができたことにより、食材を購入しやすくなった。
- ・10月より毎月定例会を実施し、厨房内の問題提起やデイサービスからの情報など共有でき、話し合う機会ができた。
- ・配食のバックの底板にアクリル板、2名用の底上げ発泡スチロールブロック、社名のテープの剥がれ防止にファイルリングを活用している。

課 題

- ・5月から職員1名疾病にて長期休みにとなっていたが、12月に退職したと後から聞いたため、報告・連絡が徹底されてなかった。また、日々の朝のミーティングの報告や連絡事項も伝わらなかったことがあり、連絡報告を徹底していく。
- ・職員の異動や退職に伴い、2名の職員が入った。マンパワーの低下にならないように研修や、スキルアップを図っていく。
- ・新メニューを増やし、利用者様に喜んでいただけるよう努める。
- ・グリストラップ周りの老朽化、工事検討やレストラン蛍光灯が点滅している。

- ・LEDに変更するか検討の必要がある。
- ・厨房職員用のトイレの雨漏りがあり、修理が必要。
- ・職員の健康、食品の安全、職員間に思いやりの気持ちを持ち、業務の段取りを意識しながら業務にあたる。
- ・向上心を持ち、スキルアップに努める。

【入浴】

評価

- ・浴室に冷暖房が入り、利用者様に入浴時も適温な環境づくりができ、職員の業務もはかどった。
- ・入浴時に全身の観察を行い、皮膚トラブルなどを看護師に報告し、早めに対処することができた。
- ・コロナ禍の中、三蜜を回避し感染対策することで感染予防ができた。
- ・入浴者の人数に合わせ、職員を増減しスムーズに入浴業務を行うことができた。

課題

- ・入浴用のストレッチャーは購入していないが、職員の腰痛対策の為購入を検討していく必要がある。
- ・入浴時間に入浴介助者、脱衣介助者、処置係など業務の役割がはっきりせず、戸惑うことがあったので、役割分担を明確にしていく。
- ・転倒する可能性のあったヒヤリハットが1件あったので、安全確認を徹底し備品なども定期的に確認していく。
- ・利用者の着替えや入浴準備用品の間違いがあり、未然に間違いを防止できるような対策が必要である。
- ・シャワーの水圧や温度調整が今以上に細かく調整できると、利用者の様にもっと快適な入浴時間が提供できると考える。
- ・シャワーをもう1カ所増やすと、スペースが広がり介助しやすくなる。

【排 泄】

評 価

- ・排泄を訴えられない利用者様に対して、職員が均等に交代で誘導しトイレ誘導することができた。
- ・排泄チェック表を確認し、排泄の誘導や声かけに職員全員が意識してできていた。
- ・転倒防止しながら介助し、転倒はなかった。
- ・排泄時などプライバシーに配慮しながら介助知ることができていた。

課 題

- ・利用者様に対して介助する職員に偏りがあった。
- ・定期的なトイレへの誘導が遅れ、失禁を防止できないことがあった。
- ・排尿間隔が長い利用者様は看護師に報告するが、遅れていた時があった。

【送 迎】

評 価

- ・職員、利用者様全員でシートベルトをし、安全に送迎することができた。
- ・送迎中も換気したり、送迎の順番を配慮したり、感染予防対策ができていた。
- ・朝の迎え時に自宅で体温測定を実施し、早めに体調確認ができ、看護師へ報告してすぐに対応することができた。
- ・送迎車を新しくしたことで、車のトラブルが無くなりスムーズに送迎ができた。

課 題

- ・送迎中に転倒事故があり、すべての利用者様に対し職員二人で介助、見守りが必要と考え、徹底していく。
- ・時にシートベルトをしていない利用者様やはずしてしまっていた方もいたので職員が確認していく必要がある。
- ・送迎時の利用者様の忘れ物があったので、持ち物を確認し忘れ物がないように意識していく。
- ・送迎中に職員が携帯電話を使用しているときがあったので、業務に集中できるようにしていく必要がある。

【趣味・教養・手工芸・脳トレ活動】

評 価

- ・担当職員を配置し、利用者様の能力に応じて作業を行う事ができた。
- ・1年を通し、季節にあった作品を作り、福祉センター内とデイサービス室に展示し利用者様、来所者の方々に作品を鑑賞していただくことが出来た。
- ・感染予防対策として、壁面などの大きな作品はパーツを以前よりは細かくし、座席で製作できるように工夫ができた。
- ・個人ファイルを作成し、日々の活動の写真や、ぬり絵、脳トレプリント等を綴り、利用者様の生きがい作り、認知症の予防につながり、楽しく充実した時間を過ごして頂くことが出来た。
- ・出来上がった作品を誕生会の時に持ち帰り、ご家族をはじめ利用者様に喜んで頂いた。
- ・脳トレのプリントなどは、ゆっくりと根気よく進めていくことで単純な計算から少し複雑な計算ができる利用者が増え、脳の活性化につながっていると実感できた。

課 題

- ・女性利用者が多いので、針と糸を使うような細かな手芸も取り組んでいきたい。
- ・担当職員の負担軽減として、他の職員の協力が必要。
- ・手工芸や脳トレを通して「達成感や喜び」が実感できるような導きができるようにしたい。

【行 事】

評 価

- ・コロナ過の中、小規模ではあったが毎月午後のレクの時間に、利用者様の誕生日会を行い、職員の踊りと誕生者紹介、プレゼント贈呈を行い祝うことが出来た。
- ・午後のレク活動時や誕生会時に職員の家族による空手のボランティアや職員によるエイサーなど小規模ながらイベントが徐々に増え、利用者様に楽しい時間を提供できた。
- ・感染対策をし、ミニミニ運動会や七夕まつりも開催でき利用者様の気分転換を図れた。

- ・宜野座村祭りに参加し、デイサービスで作成した作品の成果を利用者様と見学して楽しむことができた。
- ・感染対策をしながら、おおむね行事計画通りに実施でき、利用者様に楽しんでもらうことができた。

課 題

- ・レクや行事で使用するカラオケの機材の不具合がしばしばあり、買い替えの検討が必要。
- ・利用者様要望のドライブや買い物など外出するイベントを実施していく。